2016.9.15

【笹岡委員】　　再修正の方向性をまとめてくださってありがとうございます。何点か質問させていただきます。

　前回の委員会で、類型別の立ち位置というのは本当にこの総合管理計画の下でいいのですかというふうな質問をさせていただいたと思うのですけれども、それで今回、上がってきたといいますか、並列になったと考えておりますが、ここの説明をもう少ししていただきたいなと思います。

この再修正の方向性の１ページ目の３番、位置づけとして、下の３行目です、「「類型別施設整備計画」で定める具体的な事業については、それが実施される時期の長期計画の議論の中で改めて検討されるとしているのですけれども、ここの「長期計画の議論の中で」というのと、この個別計画のもうちょっと詳しい立ち位置といいますか、必ずしもスパンが一緒になっている、検討する時期が一緒になるとは限りませんので、どのようにお考えか伺いたいと思います。

【堀内総合政策部参事】　　これはこの施設整備に係ること以外も含めてそうなのですけれども、長期計画とそれぞれの類型別計画というのは策定時期がどうしてもずれます。その都度、お互いに整合をとるようにいたしておりますので、今回、このことで言いますと、類型別計画が先にもしできたとしますよね。その後、具体的な何々施設のことが次の長期計画・調整計画の期間に出てくるとすれば、当然そこで議論されるわけですから、そこでもし、もともとあった類型別の計画が修正が必要であれば、そこでしていくという考えでございます。

【笹岡委員】　　もう少し教えていただきたいのですけれども、この個別計画のスパンというものを、この中ですと、大体30年で考えていると思うのですが、そうすると完全に長計の５年のスパンとはまた全然変わってきますよね。この個別計画というのを修正版でも、ちょっとどこか行ってしまったな、これは今、修正版ではないのだけれども、類型別の実行計画のところは、全ての施設が大体32年までに実施となっていて、それもまた今後なんていうふうに濁してあったりもするのですけれども、こことの関連性もちょっと教えていただけたらなと思います。

【堀内総合政策部参事】　　先ほど御説明しましたように、この「実施」というのは取る予定でおります。こことの関係、さっき申し上げたことと同じことになってしまうのですが、それぞれ個別計画で、ここに今、実施計画に書いてあります、今の修正版でごらんいただきますと、何年までに何々計画をつくるというふうに書いてあるのですが、これも先ほどちょっと申し上げましたように、庁内の議論でも、いわゆるソフトのほうの個別の事業計画の中でつくるというものもあるということなので、ここの移動、変更もあり得ます。その個別計画の策定に合わせてつくるということで、それの修正もあるかなというふうには思っております。

　それ以外に、先ほどの絵で言いますと、個別計画に含めずに類型別の計画をつくるというものについては、基本的にはこの予定でつくってまいりたいというふうに今思っているところでございます。

【笹岡委員】　　重大な、この前載っておりました市庁舎の移転ですとかそういった大きな話もこの前類型別に載っていて、それはちょっとどうなのですかというお話をさせていただいて、理解してくださったのだと思うのですが、この個別計画は多分すごく長いスパンで全ての再編をするのであればと予想がされていますので、この「実施」という言葉を取っていただくということがありますけれども、この最初のところに載っていた類型別の実行計画の全部が、まあ32年を取るとしても、32年までに実施となっていたことというのは、この間に全ての施設において住民合意とか利用者の声をとって、吸い上げて再編について実行していくというのは、とてもではないですが、期間が32年までだったということはすごく少ないスパンでお話をされていたのだなと思いますが、何か御意見があればお願いします。

　また、この件なのですけれども、済みません、また他自治体の話をして申しわけないのですが、例えば立川ですと、この総合管理計画のようなものをパブコメを２回とって計画を決定した後、個別の計画を検討して、そこでもまたワークショップ、説明会をとり、個別の計画を第１期としてやり、それを５年ぐらいでやり、その間にもう一度振り返りをし、第２期個別計画にその振り返りを生かしていくというような表も、こうやって細かく今後の方針というのも載せているのですけれども、これだけではちょっと雑といいますか、もう少し何か細かい説明があってもいいのではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

【堀内総合政策部参事】　　ちょっと立川のものは拝見しておりませんけれども、当然、その個別計画、ソフトも含めて、それから施設も含めてですけれども、それぞれの個別計画を策定・検討していくには、当然ながら、市民の方を含めていろいろな議論をしなければいけない。その中にはワークショップなりパブコメなり、あるいは有識者の方に入っていただいたり、これまで私どもでやっているようなさまざまな計画づくりと同じような過程を踏まえてつくられるというふうに考えておりますので、時間的にということはあるかもしれませんけれども、基本的には、今御紹介いただいた立川のやり方とさほど違いはないのではないかなというふうに考えております。

【笹岡委員】　　わかりました。では、この図よりはもっと細かく進んでいくという、この図というのはいただいたものなのですけれども、と思いますので、ぜひ立川のほうも読んでいただきたいなと思います。

　次の質問ですが、再修正の方向性の資料の２ページ目の７番、都市基盤施設の整備状況について、再修正の方向性では、「「ここに示す公園面積や道路率には都管理施設等も含む」旨を記載する。」とありますけれども、この指摘の本来のものというのは、この公園面積、都のものとかというものまで全て含むと計算が大きくなるのではないですかというような趣旨だったと思うのですが、これを読む限りは、文言を追加しても大して計算上とかの変化はないと思いますが、そういった理解でよろしいのか、確認させていただきたいと思います。

　２番目に、８番の「投資的経費の内訳」について、前回いただきました資料に提出した「投資的経費の内訳」を添付するというような再修正の方向性が示されましたが、それは、済みません、こちらの「財政予測における投資的経費の内訳及び試算に使用した根拠等について」という前回いただいたものから何も変えないのかというのを伺いたいと思います。前回、この「投資的経費の内訳」は、公共施設の内訳と都市基盤の内訳ということで、公共施設が1,460億円、都市基盤施設が1,206億円というような内訳で、これは年度も書いてありませんよねというふうに指摘したら、30年間ですというようなお答えをいただいたのですけれども、370億円の積算根拠を示していただきたいというものに対して、この「投資的経費の内訳」を添付したことで、市民の方は、この「意見主旨」というのを読んでいただければわかるのでしょうかということを伺いたいと思います。

【福田まちづくり推進課長】　　再修正の方向性の７番のところなのですけれども、市の考えのところにも書いてありますとおり、目標値としております公園面積のベースというのは、市立公園、都立公園等々を区別せずに市内の公園というふうな形で算出しておりますので、当然、市で管理しているものは市立公園というふうな形になりますので、その辺が明確になるように補足の文言を加えるというふうな形で対応したいというふうに考えているところでございます。

【堀内総合政策部参事】　　まず、「投資的経費の内訳」とか「試算に使用した根拠」、前回お示しした資料ですけれども、御意見いただきましたように、30年とかというのが書いていない部分は当然改めたいと思っています。

　それからもう一つは、先ほど御紹介しましたように、前回お示ししたのは今の370億円というものの内訳になっておりますので、当然もう一つ追加ということになりますと、それもということになろうかと思います。

　それからあわせて全体の財政予測のことにつきましては、これも前回、「長期財政予測の作成方法」という資料をお出ししたかと思いますので、こういったものの考え方もあわせておつけするということになろうかと思っております。

【笹岡委員】　　いろいろつけていただく、補足等もしていただくということですが、ぜひ、このように質疑を重ねていってわかったことはたくさんあるのですけれども、すぐに読んだ市民の方が納得できるような添付資料にしていただきたいなと要望いたします。

　次に10番を質問します。先ほど他の委員からも質問がありましたが、これは公園の300億円、新規の300億円という予測はそのままにしてあるということですけれども、そういった実績があるというふうにおっしゃいましたが、その実績というところを説明していただきたいと思います。その実績というものの近年の実績というものがあれば教えていただきたいなと思います。

　また、今後30年間の財源不足を370億円というところから265億円と試算するということがありますけれども、これはどのページに載ってくるのか伺いたいと思います。これの265億円という数字が減ったことにより、後ろの説明ですと、『床面積削減16％試算の考え方』を「参考資料」として添付するというふうなものもありますので、16％というものは変わらないのかなと思いますが、そこら辺の御説明ももう少し伺いたいと思います。

　また、そこに関連しますが、３ページ目の21番、『床面積16％試算の考え方』を「参考資料」として添付すると書いてありますが、先ほどの御説明ですと、削減率に幅を持たせるというふうなお言葉があったかと思うのですけれども、どのくらいのことをおっしゃっているのか、伺いたいと思います。

【福田まちづくり推進課長】　　公園のほうでございますけれども、例えば先ほど堀内参事が他の委員のときに答弁したとおり、実績という話の中でですけれども、例えば直近10年というふうな形でいきますと、おおむね117億円程度公園等に事業費をかけておりまして、ここ10年間でのものにつきましては、32公園で約３万1,800平米ほどの公園を10年間で新規に開設しているというふうな実績がありまして、その前30年間のほうにさかのぼりますと、96公園で約10万平米ぐらいの公園を開設しているというふうなペースでやってきているもので、ここのかかっている30年ベースまでさかのぼりますと、約370億円ほど事業費を投資してきているというふうな形もありますので、このペースで今後も30年間続けていくというふうな考え方で、公園の部分については当初どおりというふうな考え方にしたいというふうに思っているところでございます。

【堀内総合政策部参事】　　その265億というもう一つの財政予測はどの辺に載せるのですかという御質問ですけれども、現時点ではどこにどう載せるかというのはまだ詰め切れておりません。これから検討させていただきたいと思います。

　それから床面積の削減率の件でございますが、今お示ししている財政予測及び目標のところに書いた、都市基盤施設で190億という数字を今出してございますが、これには、先ほど申し上げました今回対象外とした計画路線も含めて考えておりますので、今度それを対象外としますと、それ以外から出す数字ということになってまいります。そうすると、今のところ、これもおよそでございますが、100億円ぐらいかなというふうに踏んでおりまして、そうしますと、現在190億といったところが100億になりますので、２番目の予測のほうの財源不足265億から100億を引くと、残った165億、今、現時点での計算ですよ、それが公共施設での目標値ということになります。そうすると、これを前回お示しした計算値に入れますと、余り変わらないのですが、14.5％程度かなと。ですので、幅を持たせるとすると、現時点での数字では14.5％から16％というようなことで考えております。

【笹岡委員】　　わかりました。余り変わっていないなというような印象なのですが、公園の実績が変わらずありますよというような御説明だったと思うのですけれども、ちょっと私、知らないので教えていただきたいのですが、過去10年間、117億円、32公園というのですけれども、大きな公園というのはあったのでしょうか。

　あとは、10年間117億円かけてきて、３万2,800平米もふやしてきたということで、現在１人当たり平成22年度で4.5平米あるということだと思うのですけれども、これだけお金がないお金がないというふうに言っていて、これは公園を載せるというような、公園300億円は変わりませんというふうなお答えだったのですけれども、絶対に縮減をしていくといいますか、これからしっかりとマネジメントしていく、無駄なものを減らし、よりよいものをというふうな方針だと思うのですけれども、そこに公園300億円がのっかってきて、果たして市民の方は理解してくださるのかなといいますと、とても疑問が残るものであります。それは意見として言っておきます。

　もう１点、あと２つぐらい質問させていただきます。３ページの30番、学校施設に関して、「学校の配置、児童生徒数、敷地に収まるかどうかなど、現実的な情報を示すべき」というような意見に対しては、「今後、小中一貫の議論の中で提示されるものと考える。」とあります。

ここに関しては、再修正の方向はゼロというふうになっておりますけれども、５ページの８番、義務教育学校となった場合の給食調理施設のあり方の記載の必要は、「「再度検討する」と追記する。」とありますけれども、ここは食い違っているのではないかなと思いますが、なぜ給食調理施設は追記して、ほかの話は、今後議論の途中だからまだ何も提示しません、追記しませんよとあるのか、整合性について伺いたいと思います。

【恩田都市整備部長】　　笹岡委員の御意見ということだったのですが、ちょっと公園の件でもう一度答弁させていただきますと、私のほうから平成28年の人口に対して公園面積4.54平米、これが実績に近い数字であると。実績4.54平米。（「28ですか」と呼ぶ者あり）28年、はい。ですから、先ほど平成22年と言いましたけれども、若干ふえていますので、現在の時点では4.54平米と。ですから、１人５平米にしますと、0.66平米まだ足りないという形になります。（「0.66ではない」と呼ぶ者あり）0.46平米ですね。

足りない分をこれで14万人を掛ければ全体として足りないという形になりますので、それを30年で割って、１年間当たり3,000平米弱というような感じになると思います。

2,500平米ちょっとという感じになるのですが、これまでの実績も、基本的には年間当たりこの30年で3,600平米ぐらいの実績があるというような数字になりますので、さっき課長のほうが答弁した内容でいきますとそのぐらいだと。これはあくまでもシミュレーションの上での数字でございますので、これを先ほどの370億あるいは265億の財源不足、基金不足という中で、ではこの公園のスペースを一体どうしたらいいのかというようなことは、ほかの施策とも絡みながら努力して削減していくという方向になると思いますので、今現在の計画と進捗の実績を踏まえて、今のところは算出しているということでございますので、これを今後どうしていくかというのは、まさにそれは総合管理計画で示された個別計画あるいは全体計画の中でどうしていくかというのは、施策の一つの中で検討する内容なのかなというふうには認識しているところでございます。

【堀内総合政策部参事】　　まず、学校の調理施設の件でございますけれども、従前の書きぶりは、中学校はセンター方式、小学校は自校方式という書き方をしておったわけですけれども、これを仮に小中一貫ということになれば全部が自校方式ということになるので、これは明らかですので、このような書き方をさせていただいております。

　一方で、敷地におさまるかどうかと、こちらは今まさに検討中でございますので、このような表現にしたということでございます。

【笹岡委員】　　御丁寧な御答弁ありがとうございました。今後、個別計画や全体計画で公園については検討されていくのだろうというようなお話がありましたが、言いたいことは、今後それだけいろいろな無駄を省いていく中で公園に300億というのは、もしかして理解が得られないのではないですかというような、これだけ10年間117億円もかけてきてくださったおかげで、大分、4.54平米ということで、すごく緑が豊かになっていると思います。

吉祥寺エリアはもうちょっと欲しいところですが、境のほうとかはたまに行きますとすごく緑が多いなと思いますので、そこら辺は総合管理計画の方向性としては、無駄を減らし、よりよいものをつくっていくというものでしたら、ここはぜひ今後も検討していただきたいと思います。

　なぜこういったことにこだわってしまうかといいますと、ほかの自治体の総合管理計画を読みますと、やはりもう少し無駄を減らしますといったもので、今回追記されるというような、経常収支の増とかも含め、人件費等も含めというようなことがあったと思いますけれども、２ページの一番下の段ですね、歳入増や経常経費の削減なども行っていきというような記載が入るとありましたが、そういったところが少し少なかったのかなと思います。

といいますのは、ほかのところを見ますと、市民アンケートを東久留米でとっていて、そこは20代から70代まで2,000人に送っています。それで、どの施設を使っているのかとか、なぜそこは使わないのかとか、ではどういった施設から複合化とか考えていくかといったら、やはり利用率が少ないところだよねという結果が出ましたということも載せているのです。

だとしたら、市民の方はそういうのを見たら、では本当に無駄なところから、全然使っていない、聞いたこともないような施設から減らしていくのだというふうな理解は得られますが、この一番最初に出てきたものが、学校施設が一番最初に検討だったということで、これだけいろいろな議論がさまざまなものが出てきたのかなと思いますので、足りなかったところというのをもう少し考えていただきたいなと思います。

　最後の質問です。３ページの一番下、学校は避難所でもあり、防災対策が重要であるというものに対し、「「災害時の避難所でもあり、その機能が発現できるよう検討する」と追記する。」とありますが、検討というよりは、私は災害時の避難所というのは必須事項ではないかなと思うのですけれども、これは検討という言葉を選んだことをちょっと御説明いただきたいなと思います。

【堀内総合政策部参事】　　ここは類型別の方針に書いているところなので、常々申しているように、これはこれから検討することを書いているということなので、このような表現をしたということでございます。

以上。